

分別した資源ごみ こうやってリサイクルされています!!

紙パック編

リサイクル率の低い紙パック



紙パック：約41%

ビン：約70%

缶：約85%

ペットボトル：約69%

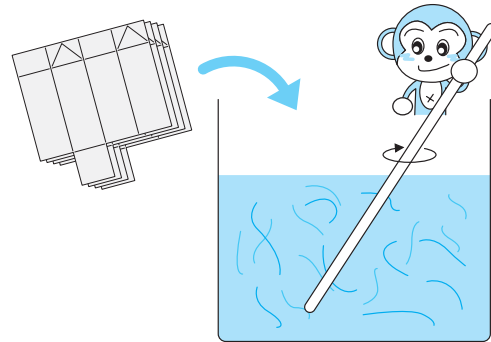
飲み終わったあとの紙パック、みなさんは“資源ごみ”で出していますか？

この紙パック、良質なパルプから作られていてリサイクルの原料になる大切な資源なんです。少しの手間をかけるか、かけないかで、ただ燃やされるか、貴重な資源としてリサイクルされるかが決まります。

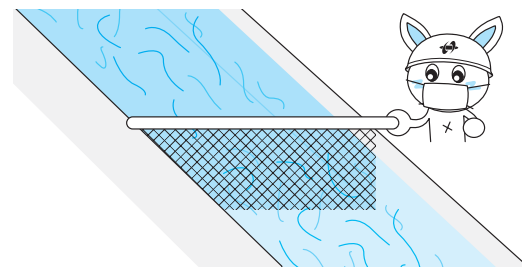
ごみの量を減らすことができ、地球に優しい取り組みにご協力を！

生まれ変わるまで

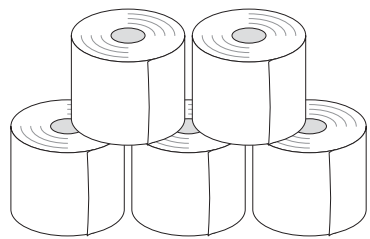
1 紙パックをどろどろの繊維（パルプ）になるまで溶かします。



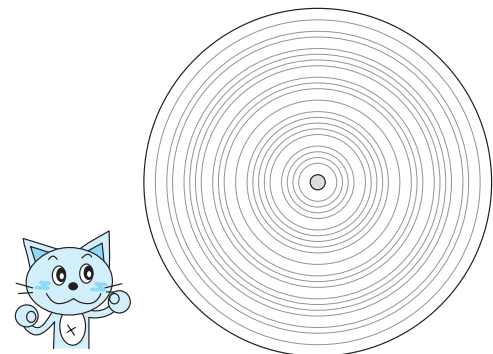
2 パルプに混ざっているごみを取り除いた後、洗浄と殺菌をします。



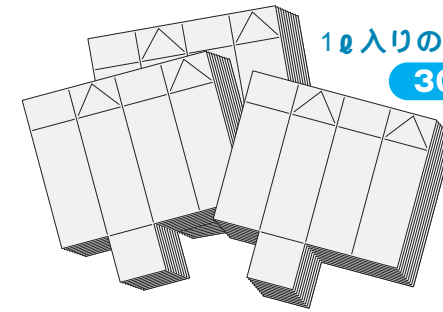
4 製品になります。
(トイレトペーパーやティッシュペーパーとして生まれ変わります)



3 製紙して大きなロールをつくりま



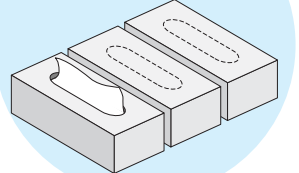
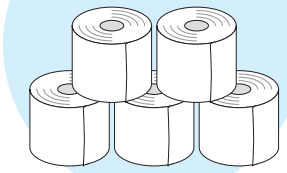
1ℓ入りの牛乳パック30枚で生まれ変わる製品とその数



1ℓ入りの牛乳パック
30枚

トイレトペーパー
5個

ティッシュペーパー
3~4箱



他にも、紙製のファイル、紙皿、商品パッケージの板紙などに生まれ変わります。

3つのルール

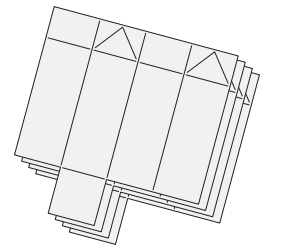
洗って・開いて・乾かして

水洗いをしてから切り開いて、乾かして出してください。

水洗いや乾燥をしないと、カビが生えて、リサイクルできなくなってしまいます。また、雨天の収集日には、出さないでください。

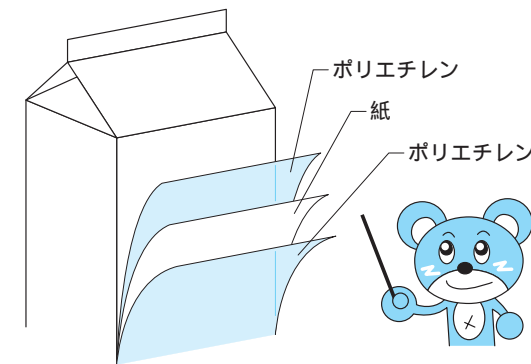
内側がアルミ加工されているものは、「もえるごみ」で出してください。

市で取り引きしている業者は、アルミ加工されているものをリサイクルできないため、「もえるごみ」で出してください。



リサイクル豆知識

紙パックの構造



紙は水につけると破れてしまいますよね。

では、なぜ紙パックは、中の液体がもれないのでしょうか。それは、紙パックの構造に秘密があるからです。

左のイラストのように牛乳などの紙パックは、ポリエチレン-紙-ポリエチレンの3層構造になっています。このため、中から液もれしたり、パックの外側に水滴がついても破れたりすることはありません。

紙パックに使われているポリエチレンは、繊維に戻すときに取り除いて、燃料として利用されます。

紙パックをリサイクルすることは森を守ること

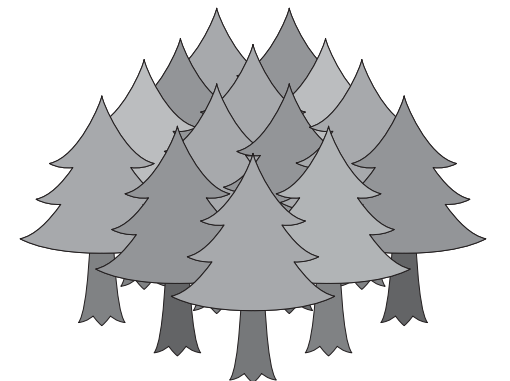
紙パックは、アメリカやフィンランドの寒い地方で育つ針葉樹を使用しています。針葉樹から採れるパルプは繊維が長く、紙パックに適しているためです。

しかし、伐採した木ばかり使って紙を作っているのは、森が減っていきます。そうすると、森が吸収できる二酸化炭素量が減って、地球温暖化の一因にもなります。

家庭から出る紙パックを回収してリサイクルすることで、必要以上に木を伐採せず、森を適正に管理することができます。

森を守ることは、地球温暖化の防止にもつながります。

みなさんの協力が、地球を救うのです。



問北勢庁舎 生活環境課 T 72-3946 F 72-3748